

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	羽後本荘駅東西の連絡強化と交通結節点機能確保による移動の利便性、安全性の向上（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	由利本荘市												
計画の目標	羽後本荘駅東西自由通路、駅前広場及び駅東広場の整備を行い、JRによる地域分断の解消、バリアフリー化や交通結節点機能の確保により利便性及び安全性の向上を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	3,927	A	3,774	B	0	C	153	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	3.89	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28		H32末
1	駅東地区から駅前広場までの所要時間を7分短縮 整備の有無によって生じる時間差により算出 （所要時間）＝（歩行距離／歩行速度）（分）	12分	分	5分
2	東西自由通路整備後の交通結節点（駅・東西自由通路）の利用者数を11%増加 駅出入口での通行量（H25調査）と東西自由通路整備後の東西自由通路の通行量の割合により算出 （交通結節点の利用者増加率）＝（評価時点の通行量－H25年調査の通行量）／（H25調査の通行量）	2153人/日	人/日	2400人/日

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
道路事業	A01-001	街路	一般	由利本荘市	直接	由利本荘市	S街路	改築	(都) 東西自由通路線 (駅前・駅前広場)	自由通路L=55m、駅前広場A= 6,000 m2、駅前広場A= 2,400 m2	由利本荘市	■	■	■	■	■	3,774	—		
												小計						3,774		
											合計						3,774			



事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	由利本荘市街路事業担当課において、事業実施状況・指標の達成状況の確認および評価を実施	事後評価の実施時期	事業期間終了後
		公表の方法	由利本荘市ホームページで公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	羽後本荘駅東西自由通路の整備を行うことにより、JR鉄道施設による地域分断が解消され、駅東西間の歩行所要時間が短縮された他、交通結節点（駅・東西自由通路）の利用者が増加し、利便性及び安全性を向上させた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

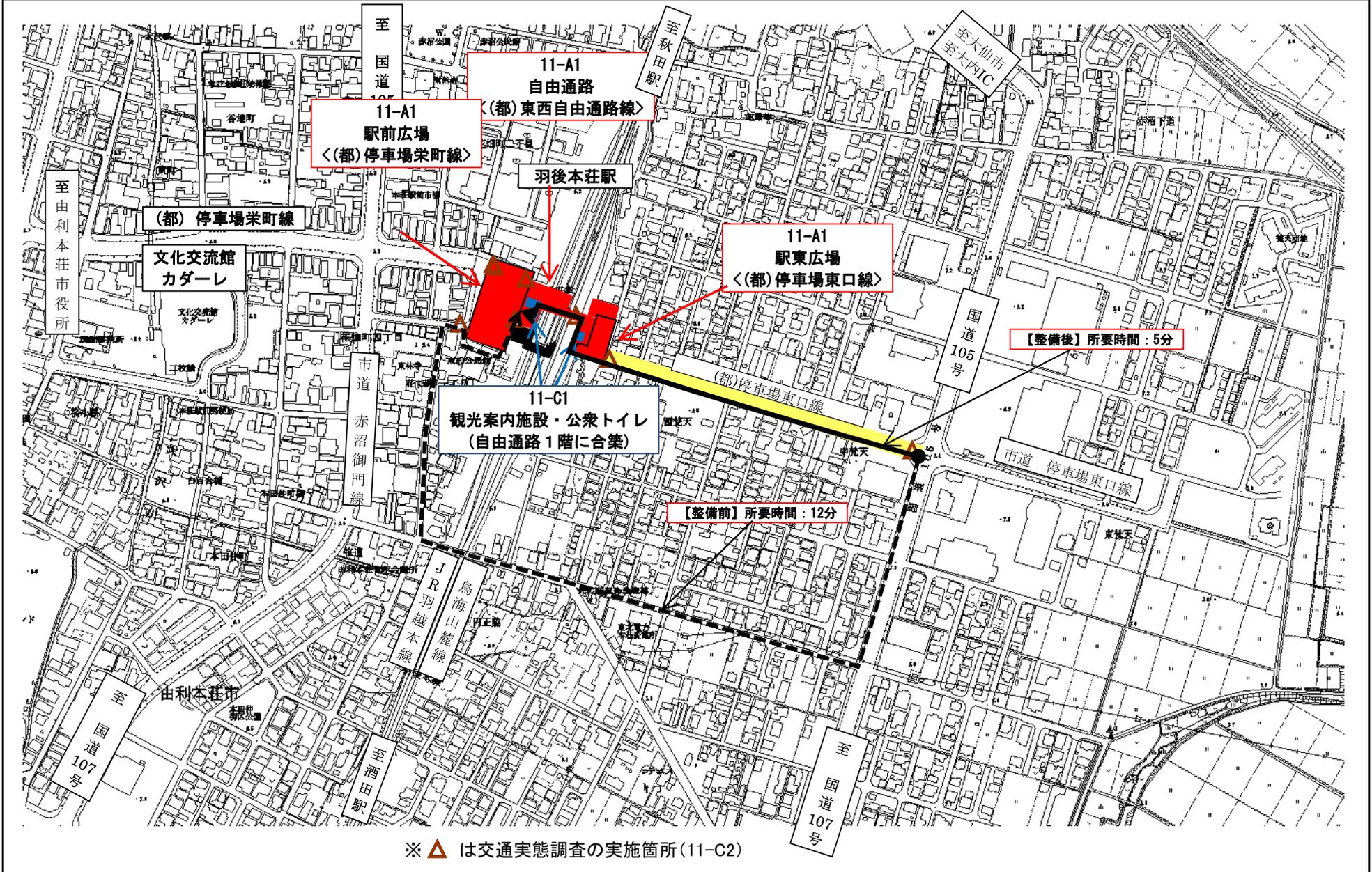
○特記事項（今後の方針等）

・ 今後は、計画的な道路施設の長寿命化を行うことにより、施設の持続的な管理運営を図り、由利本荘市の安全・安心な市街地環境整備を推進する。  
 ・ 引き続き、駅前広場・駅東広場の整備を進め、更なる利便性及び安全性の向上を図る。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	駅東地区から駅前広場までの所要時間	
	最終目標値	5分
	最終実績値	5分
2	交通結節点（駅・自由通路）の利用者数	
	最終目標値	2400人/日
	最終実績値	2670人/日

# 参考図面（防災・安全交付金）

計画の名称	11 羽後本荘駅東西の連絡強化と交通結節点機能確保による移動の利便性、安全性の向上（防災・安全）	交付対象	由利本荘市
計画の期間	平成28年度 ～ 平成32年度（5年間）		



※ ▲ は交通実態調査の実施箇所(11-C2)